

## 第48回 Web 防災カフェを開催しました。

### 避難所運営と新型コロナウイルス感染症対策

～訓練から見えてきたこと～



ゲスト：馬場 歩美 さん

(滋賀県知事公室 防災危機管理局 地震・危機管理室 主事)

日時：2020年8月6日(木) 18時30分～20時30分

ファシリテーター：梅村 淳 さん

(滋賀県知事公室 防災危機管理局 地震・危機管理室主任主事)

参加方法：自宅等から Web 会議システム (Zoom) による

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、避難所運営には、これまでとは違った配慮が必要です。本県で2020年6月に策定した避難所運営ガイドラインに沿って7月28日に高島市で行われた避難所運営訓練でわかったことをもとに、これからの災害避難について一緒に考えました。

まず、馬場さんから訓練の様子についての説明がありました。今回の訓練は研修を兼ねており、滋賀県から防災危機管理局と健康福祉政策課、高島市から政策部危機管理局防災課、県内18市町の防災部局と保健部局の担当者か避難所設営担当、そのほかに日本赤十字社滋賀支部、大津赤十字病院、県保健所、県社会福祉協議会から77名が参加して行われました。



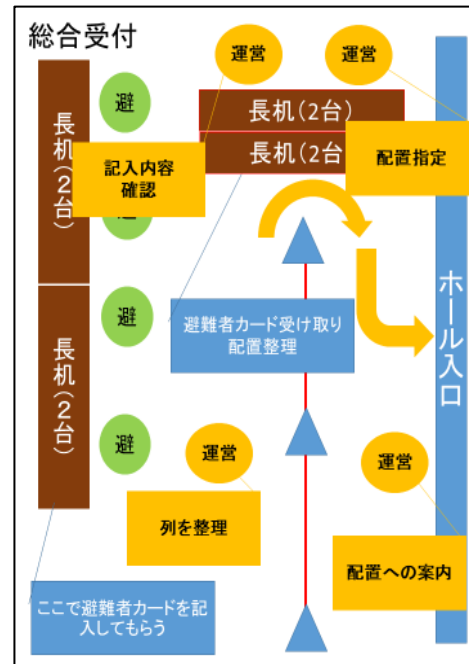
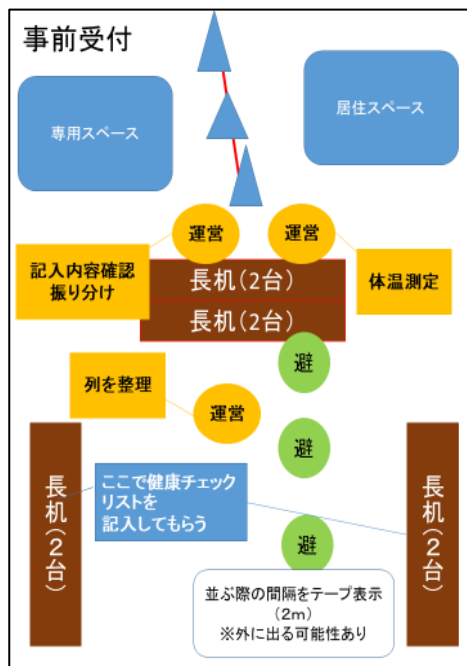
ゲスト：馬場 歩美 さん

その目的は、新型コロナウイルス感染症まん延中に自然災害が発生し、避難所を開設した場合を想定し、感染症対策の知識向上と課題の共有、避難所運営の実践経験を積み、対応力を向上させるとともにガイドラインの必要な見直しにつなげることでした。

訓練は28日の午後から行われ、「ガイドラインを基に感染症対策」「避難所での感染症対策のポイント」の説明の後、「避難所の設置訓練」「避難者への対応訓練」などに続いて、「参加者による意見交換」がありました。「避難所の設置訓練」と「避難者への対応訓練」は、動画で見ることができました。

『避難所の設置訓練』では、参加者が4つに分かれ、次のそれぞれの設置を進めました。

- ・事前受付（検温や体調チェック表をもとに、避難者の体調を確認し、居住スペースもしくは専用スペースに振り分ける）
- ・総合受付（発熱者や体調不良者以外の避難者に、避難者カードを記入してもらい、内容を確認後、区画を案内する）
- ・居住スペース（発熱者や体調不良者以外の避難者のためのもの）
- ・専用スペース（事前受付で振り分けた発熱者や体調不良者のためのもの）



居住スペース(段ボールベッド組み立て)



専用スペース(簡易テントの設置)

『避難者への対応訓練』は、運営役と避難者役に分かれて行い、交代して全員が両方を体験できるようにしたということでした。避難者は、一般避難者・発熱者・体調不良者の家族・体調不良者・濃厚接触者・高齢者・妊産婦・歩行困難者を想定して行われました。

『課題共有グループワーク』では、参加者が6名のグループになり、訓練で感じた課題を

整理していったそうです。その結果、次のような課題がでたということでした。

【新型コロナウイルス感染症対策】では

- ・ 感染症対策についての情報共有が必要
- ・ 感染の疑いのある避難者に対応した職員へのフォローが必要
- ・ 感染防止対策の徹底が困難
- ・ 職員が手本となって衛生行為を徹底すること
- ・ 受付での割り振りの見極めが難しい など

【避難者への対応】では

- ・ 事前受付の待ち時間が長い
- ・ 記入項目の見直し
- ・ 個人情報の取り扱いの方法の改善
- ・ チェックリストの簡素化
- ・ 動線の掲示が必要
- ・ 要配慮者、ペット、体調不良者などに応じた対応と配慮が必要 など

【運営(人的)面】では

- ・ 役割分担の明確化が必要
- ・ 研修や訓練など職員の対応力向上の機会が必要
- ・ 各避難所にリーダー・指揮者が必要
- ・ 引き継ぎ方法の確認
- ・ 人員が足りない など



ファシリテーター：梅村 淳さん

【運営(物的)面】では

- ・ 十分な備品の用意や計画どおりの設置が難しい
- ・ プライバシー確保のためにパーティションが必要 など

【その他】では

- ・ 住民への事前周知が必要（分散避難などの避難方法や避難時の携行品）など

その後、会場となった高島市と訓練に参加した市町の中で大津市・長浜市・湖南市の防災担当の方から各市の状況や訓練に参加しての感想などのお話を聞くことができました。

これらを踏まえて、2020年6月23日に滋賀県が策定した「新型コロナウイルス感染症対策のための避難所運営ガイドライン」【避難所運営実務者向け】の見直しを進めるということでした。

参加者の皆さんから、チャットで感想や意見が送られてきました。いくつか紹介します。

意見1：避難所の換気ですが、空気の流れを考えると扉の開放だけでなく大きな送風機が必要かと思います。簡易テントは風が通りにくく熱中症の心配があります。使用後の段ボールベッドは産廃として難しい問題もあるということを知ったことがあります。

意見2：避難所担当の市町職員も被災する可能性が大いにあります。ですから、市町は担当職員だけでなく地域の自主防災組織のスタッフ等も交えて、今回の研修を踏まえた訓練を実施してほしいと思います。

意見3：避難所運営を行政に頼るのではなく、地域住民で運営や感染症対策のルール作りをしていかななくてはならないと思いました。

馬場さん、梅村さん、参加者のみなさん ありがとうございました。